

氏名(本籍)	ひろ なか 廣中 あゆみ (山口県)
報告番号	甲第23号
学位の種類	博士(健康福祉学)
学位記番号	健康福祉博甲第23号
学位授与年月日	2021(令和3)年3月17日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当(課程博士)
学位論文題名	看護師の集団構造および集団機能とメンバーシップとの 関連
論文審査委員	主査 教授 田中 マキ子 副査 教授 横山 正博 副査 教授 人見 英里

## 論文要旨

### 看護師の集団構造および集団機能とメンバーシップとの関連

医療の現場は集団での協働が不可欠である。中でも病棟看護師は、交代制勤務で働いており、チームとして24時間切れ目なく継続して看護を提供する必要がある。そのため、本研究は、病棟に所属する看護師の集団構造と集団機能について看護師個人のメンバーシップとの関係から検討し、メンバー間の良好な関係の構築と看護師集団が円滑に機能するための提言を行うことを目的とした。

第1章では、病院の医療集団および看護師集団について述べた後、看護師の集団機能であるチームワークとメンバーの姿勢であるメンバーシップについて先行研究を概観した。その結果、コミュニケーションと感情、フォロワーシップについて課題が残されていること、集団機能における個人の評価とチームの評価の接続に関する研究がほとんど行われていないことが明らかになった。そこで、個人のメンバーシップ行動や感情、コミュニケーションレベルが所属集団の機能に影響を与えているという研究の枠組みを設定し、この検証のために混合研究法を採用した。

第2章では、所属集団とメンバーおよび自己の役割に対する認識を明らかにすることを目的として半構造的インタビューによってデータを収集した。計量テキスト分析により得られた共起ネットワーク図およびテキストデータから、メンバーと自己の役割を先輩・後輩関係という非公式な上下関係の枠の中で捉えていること、この関係とコミュニケーションにメンバーの感情が関与して

いることが示唆された。

第3章では、第2章の結果および先行研究を基に作成した質問票を用いて量的調査を実施した。その結果、仕事に直結するフォーマル・コミュニケーションよりも、フォロワーシップやメンバーの感情が所属集団の集団機能に大きな影響を与えていること、集団の非公式な上下関係がコミュニケーション構造を複雑にしていることが明らかになった。さらに、メンバーシップの一つであるフォロワーシップは、集団の機能全体に最も影響を及ぼしており、この重要性が示された。

最後に第4章において、看護師集団の構造・機能とメンバーシップとの関連として、看護師集団をより円滑に機能させるためには個人のフォロワーシップが鍵となる他、先輩-後輩関係という序列とこれに端を発するコミュニケーションの機能不全を指摘した。これらの課題を解決するには、個々のメンバーのフォロワーシップとコミュニケーションの強化が重要であり、これによって、集団内の対人関係が改善され、それに伴い集団の機能を最大限にすることができるようになると思われる。

#### Abstract

The relationship between collective structure and collective function of nurses and membership

Cooperation is essential in the field of medicine where people work collectively. Specifically, ward nurses work in shifts, as nursing care must be provided continuously for 24 hours a day. Thus, the present study examined collective structure and functions of ward nurses through each nurse's relationship with membership and aimed to make recommendations toward pleasant relationship among members and smooth function of group of nurses.

In chapter 1, groups of medical staff and nurses at a hospital are discussed, and previous studies on teamwork, which is a collective function of nurses, and membership, which is an attitude of members were reviewed. The result showed that there are issues with communications, emotions, and followership, and that there are hardly any studies on the connection between assessment of individuals and teams in relation to teamwork. Thus, we set up a research framework in which individual membership behaviors and emotions and communication levels have an impact on the function of the affiliated groups and chose mixed methods research for verification of such framework.

In chapter 2, in order to clarify awareness of the roles of affiliated groups, members, and oneself, we collected data through a semi-structured interview. Co-occurrence network diagram and text data obtained from a statistical analysis of texts indicated that roles of

members and oneself are perceived within an unofficial hierarchical framework called senior and junior members. It also indicated that emotion of members is involved with this relationship and communication.

In chapter 3, quantitative survey was conducted using a questionnaire prepared using the result from chapter 2 and previous studies. The result showed that more than formal communications that are directly connected to work, followership and emotions of members had more impact on collective function of the affiliated groups. It also showed that unofficial hierarchy of groups made the communication structure more complex. In addition, followership, which is a type of membership, had the most impact on the overall function of a group, showing its importance.

Finally, in chapter 4, in terms of a relationship between collective structure and function of nurses and membership, it was shown that individual followership is a key for smooth function within group of nurses and hierarchical relationship between seniors and juniors led to communication dysfunction. To solve these issues, stronger followership and communication of each member is important as it improves personal relationships within groups and collective function would be maximized.

## 審査結果

本研究は、集団としての継続性が重視される看護現場において、高い質を発揮するために看護師にどのような集団構造・機能とメンバーシップとのあり様が必要かについて検討している。本論は4章で構成されている。第1章では、看護師チームの現状と課題を明らかにし、第2章では、看護師が所属するチームやメンバーに対する自己の役割に対する認識をインタビュー調査から明らかにした。第3章では、質問票調査から、感情とコミュニケーションに着目した分析。第4章は、質・量の調査から非公式な上下関係という構造的課題を見出し、その課題解決に対しどのような機能をもたらすことが重要かについて、総合考察している。

博士論文の審査基準に照らして、本論文を評価した。

1. 副論文の作成：副論文として「看護師間のチームワークに対する認識と関連要因の検討」日本看護学会論文集 第48回，2018年 査読付き を確認した。
2. 研究課題の明確化：交代勤務という形態をとりながらも、その内容には連携・協働が不可欠である医療現場において、看護師の集団構造・機能とメンバーシップがどのような関連にあるかについて、課題設定は適切で明確化できていた。
3. 先行研究の適切な検討：集団構造・機能とメンバーシップとの関連について、構成メンバーである個人の評価が集団評価にどのように接続されているかについて明らかにされていないことが示され、研究課題の独自性・新規性について、適切に述べられていた。
4. 研究方法の適切な選択と実施：研究課題から混合研究法が採用され、質的・量的調査の実施、最終2つの調査を統合し分析・検討する方法は妥当であり、各調査の実施も適切に行われていた。
5. 新たな知見の提示と学問発展への貢献：看護師の集団構造・機能とメンバーシップには、構成メンバーである個々のフォロアーシップとコミュニケーションの強化が重要と指摘された。また、非公式な上下関係である先輩—後輩関係が鍵となり機能することが指摘され、看護師集団にみられる特徴的な文化として新たな知見を明らかにした。
6. 文章作成能力：論文全体の体裁並びに文章表現等は、概ね整っていた。

最終試験では、本研究の成果と課題等に関する質問に対して、適切な回答が得られた。

以上の所見を総合して、廣中氏は博士論文審査及び最終試験に合格したものと認める。